

IV-145 並木通り事業報告

広島市中区役所建設部 正会員 古本麻生 小川康彦
神笠寛治 ○岡本正史

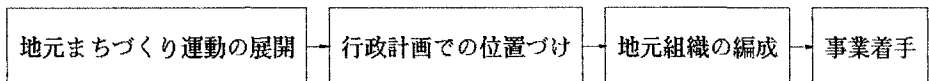
1 まえがき

市道4区155号線は、都心商業地域である八丁堀を中心とした「広島顔」の一枚にあり、本通りと平和大通りを結ぶ延長約340mの通りである。これまで繁華街の裏側の存在でしかなかった閑散としていた通りが、地元町内会・商店街の自主的・活発なまちづくり活動により次第に活況を呈し、愛称「並木通り」として市民に親しまれ定着するまでになった。

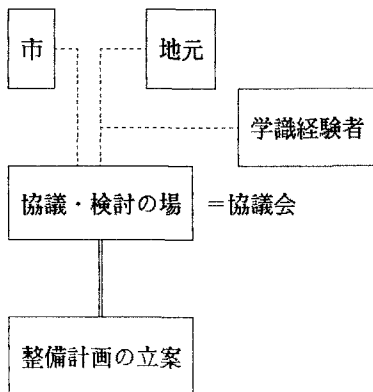
今回の取り組みは、こうした地元の積極的なまちづくり活動を背景に、道路管理者と占有者等の関係機関そして地元が合体し、個性的・魅力的価値を一層高め、全国に誇れる通りを創るべく、準備・啓発に約7年、実施・検討期間に2年、工事に1年、足し掛け10年という長い年月にわたり、手づくりで取り組んだ事業である。

2 事業の経緯

地元のまちづくり活動が一つの契機となり、ファッションビルの進出、行政計画での位置づけ、地元組織の編成・強化と着実に歩みつづけ、昭和61年度の内需拡大による電線類地中化事業(キャブシステム事業)と言う絶好の機会を得て、事業着手となった。



3 計画づくり

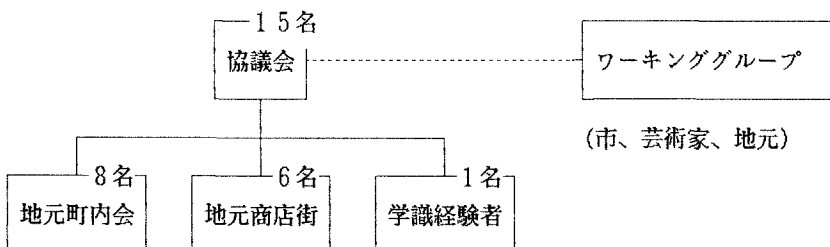


(1) 基本的考え方

事業は、市の行うキャブを中心とした道路整備と地元の行うストリートファニチャー類の地表面整備に大きく区分され、各々が通りの効果的演出を図るうえで密接に結びついている。

このため、地元組織として「並木通りまちづくり協議会」を設置し、この場で市と地元が十分協議・調整し、双方納得のいく整備計画の立案を行った。

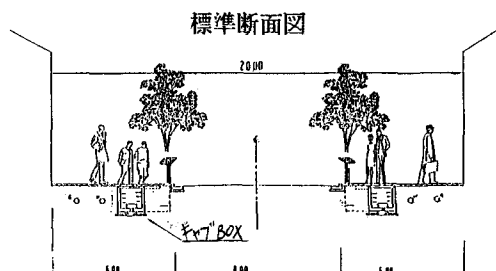
(2) 協議会の構成



4 事業概要

(1) 整備内容

① 路線名	4区155号線	④ 事業費	約6億円
② 延長	340m	⑤ 工期	S62.2～S62.12
③ 幅員	20m	⑥ 内容	・キャブ工 約640m
	(歩) (車) (歩)		・地表面整備 カラー舗装
整備前	4.5 + 11 + 4.5		街路灯
整備後	6 + 8 + 6		植樹
			ファニチャー
			etc

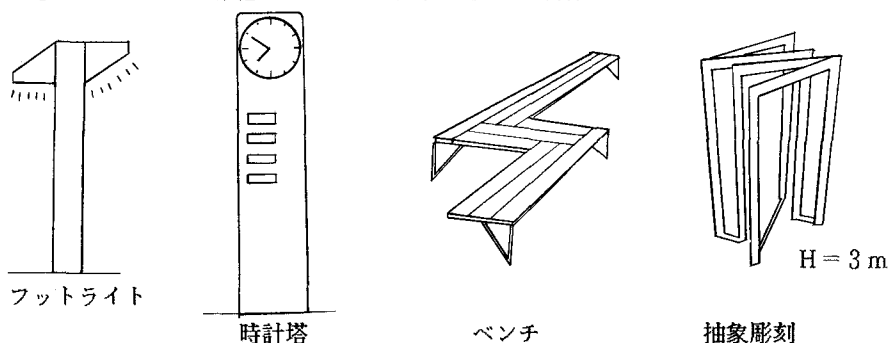


(2) 整備方針

① デザイン方針

通りの主役は、来街者、建物であり、この主役が引き立ち、そして憩い、やすらげるような空間、景観、色彩を構成する。

② ファニチャーの形態・デザイン（地元の費用で制作・占用許可）



5 整備後の評価

地元住民・店主を対象に広島大学・石丸先生により、整備後のアンケート調査を行った。この結果、全体的評価は、80%と好評を得、キャブについても防災面、景観面で一応の評価を得ている。一方、個々の施設については、生活に密着している電話BOX、街灯類は好評を得ているものの、なじみのない抽象彫刻、歩道タイルの色彩については、評価の別れるところとなっている。

6 今後の課題

今回のこの試みは、市と地元及び関係機関が協力し、手づくりで取り組んだところに意義があり、本市の個性あるまちづくりの一ページを飾るものである。これが一つの起爆剤になり、商店街の再生、快適な道づくりへと気運が高まり、こういった試みが、点から線へ、更に面へと拡大され、広島ならではの個性ある魅力的な都市づくりを期待している。